

特集

# 東日本大震災から3年

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から3年。  
市民の安心した生活を取り戻すため、一步一步、復興へ向けて歩んでいます。



『しおがま文化大使』の平間至さん

## 震災が教えてくれた 塩竈を好きだという気持ち

「仮設住宅での春や秋の季節のバーベキュー炊き出しはこれからも続けます」と話すのは震災直後からさまざまな支援活動が続け、私たちに元氣と感動を与えてくれている『しおがま文化大使』の平間至さん。

地元のお店で食材を買って、地元の若者たちに手伝ってもらって、楽しみに待っていてくれる人たちにまた会いに行きたい。年月が経つにつれ支援する気持ちはあっても、何をどうしたらいいかわからない人もいっぱいいる中で、ふるさとのために行動できることは本当に幸せなことだと思っています。

## 支えてくれる人がいるから

撮影で知り合った歌手の和田アキ子さんは僕の活動を知って、震災の年の秋から毎月11日の月命日にずっと支援金を振り込んでくれていました。それを塩竈での活動に充てさせていただいています。また行動を共にしてくれるドラゴンアッシュのアツシさんと始めた「ガマロック」は外側の人間と内側の人間が本当に信頼し



▲震災直後の4月17日に、たくさんの音楽家を連れてチャリティーコンサートを開催



3.11 POWER of LIFE (ふれあいエスプ塩竈)

あつて作り上げた塩竈色豊かな音楽イベントになりました。  
アーティストとの距離の近さや全体的な温かな雰囲気は、お客さんからも出演者からもたいへん高い評価をいただいております。

## 塩竈の元気でほか被災地を勇気づけたい

あの震災でも塩竈は、中核が機能していました。魚市場の再開も仮設住宅や仮設店舗の建設なども被災地の先駆けとなる部分がたくさんあります。ガマロックやフォトフェスもそうですが、被災地の中で塩竈が先駆けていくことが、ほかの被災地を勇気づけることになるととても嬉しいです。



▲ラジオ局が被災し、その年の12月までは市役所から放送

震災後、被害の大きかった浦戸諸島にも電波が届くようになりまし。また、今後災害が起きてても、すぐ情報を伝えられるように準備を進めています。被災者にとって停電で何の情報もない2日間は長かったはず。もう電波は止められない。

### 3年経った今が引き締め時

「震災後2日間、放送できなかったのは無念だった」と語るのはコミュニティエフエム「ベイウエーブ」の横田善光さん。ラジオ局は、阪神大震災を教訓とし震災に備えて立ち上げられました。しかし、当時ラジオ局は尾島町にあつたため、避難を余儀なくされました。なんとかラジオだけは復活させたいという強い思いからケーブルテレビなどの協力のもと3月13日、災害エフエムとして放送を開始。以後、安否情報やライフライン情報などを放送し続けました。「たくさんの方が放送に必要な生活情報などを直接スタジオまで届けてくれた。本当に多くの方に支えられてきました」と3年間の振り返ります。



ベイウエーブ専務取締役の横田善光さん

### 皆さんの励ましが放送を支えた

そして、3年経った今もまだまだ復興途中の方はたくさんいるので、これからも「被災された方々に寄り添うラジオ局」を目指して活動していきます。

### 地域の輪を大切に

地震発生直後は、港町の近所の高齢者などへ声掛けをしてから避難したという東部町内会連絡協議会会長の日野勝博さん。

震災後は、普段から地域の方々へ声掛けするようになりました。特に一人暮らしや高齢者世帯には災害だけではなく日常生活の安全にも目を向けるよう心掛けています。住民にとって町内会はとても身近なもの。その町内会が頼れるものになるよう、この震災の苦い経験を生かして活動していきたいです。

### 時が経っても忘れない 忘れてはいけない

確実に地域全体の防災意識は高まりました。3年がたちその意識も薄れていくのではと心配する人もいますが、この震災で学んだことは決して忘れません。「自分の命は自分で守る」と身をもって感じた方は多いはず。またいつ起こるか分からない天災。「あのととき大変だった」で終わらせず、後世へ伝えていければと思います。



東部町内会連絡協議会会長の日野勝博さん

### 自主防災組織で災害に備えましょう

東日本大震災では、自主防災組織が活躍したところが多くあり地域のつながりが見直されました。この組織は、市民一人ひとりが「自らの命は自ら守る」「自らの地域は自ら守る」という考え方にたつて、自主的に防災行動をするものです。



▲市の防災訓練にも参加

### 本市の自主防災組織の状況(平成25年10月末現在)

- ・組織数 71団体(83町内会)
- ・組織率 66.7%(世帯数による結成率)
- ※東日本大震災発生前は59団体

### 緊急時の連絡方法などは大丈夫?

いざというときのために、いま一度、さまざまな連絡手段や避難場所などを確認しておきましょう。「災害用伝言ダイヤル」☎171や携帯電話・スマートフォンサービスの「災害用伝言板」は、次の期間に体験利用することができます。

- 毎月1日・15日
  - 正月三が日(1月1日～3日)
  - 防災とボランティア週間(1月15日～21日)
  - 防災週間(8月30日～9月5日)
- ※詳しくは、電話会社のホームページで確認できます。

☎市民安全課防災係  
2664-1111(内線245)

